

株式会社 電研端子製作所

〈事業計画名〉難削材高機能部品市場への進出による事業領域の拡大



難削材への技術力向上による 新たな市場開拓と営業領域の拡大

事業の背景

IT産業等の装置の高機能化によりニーズが高まる難削材

IT産業市場や医療機器市場の装置が高機能化するにつれ、その装置を構成する部品に高い付加価値（軽量、高強度、高耐熱性）のある難削材を採用するケースが増加していた。

当社においても事業領域の拡大と収益の安定化を図るため、精密加工技術を活かすことができ、なおかつ成長市場である難削材高機能部品市場への進出を考えていた。

しかし当社の既存機械では難削材加工時においては、切りくずが刃具に巻き付く事による品質の変動や、加工対象物の硬度が高いため切削速度を落とすことによる生産性の低下、工具への負担増に伴う工具寿命の短縮が課題となっていた。

そのため最新の高圧クーラント付き低周波振動切削機械の導入により、品質の安定化と生産性の向上を目指した。

■低周波振動切削

切削中に“空振り”時間を設けることにより、切りくずを細かく断続的に排出させる特徴を持つ切削技術

■クーラント

工作機械で使われる「潤滑油」。加工対象物と工具との表面に油の膜をつくり、【潤滑】【冷却】【洗浄】の役目をはたす

事業の成果

難削材の技術強化による市場開拓と営業幅の拡大

最新の高圧クーラント付き低周波振動切削機械導入により、スムーズな切りくず排出処理が実現するとともに、刃具寿命の延長が可能となった。

そのため切りくずなどの発生により有人での管理をしていた既存の設備に対し、無人での作業が実現。およそ3倍の作業が可能となり、品質の安定化と生産性の向上につながった。

また、本事業において難削材の切削加工条件を把握し、細孔・深穴・超薄肉加工技術の開発を実現することにより技術的差別化が可能となった。

さらに「難削材への技術が強化されたこと」により、難削材だけではなく難削材を含む一連の発注への対応が可能となることで、新たな市場開発のみならず、技術向上による営業の幅の広がりにもつながった。



株式会社電研端子製作所の概要

「小さな部品が身近な生活から広く社会まで」高品質な製品を提供し広く社会に貢献する

当社は昭和36年の創業以来、永年にわたり電子部品用リードピン製造、線材・薄板材の極微細加工プレス、金型・施工を行いエレクトロニクス業界や自動車業界に貢献している。

IC・各種センサー・安全ヒューズ・コネクタ・エアバッグセンサーなどの製品部品を幅広く提供しており、加工可能材料はφ0.1～16mmの銅線、特殊合金やレアメタルとなり、超微細加工技術のレベルアップを図っている。

電子部品のリードピン端子という、あまり表には出ない製品を作っているが、創業者から受け継いでいる「小さな製品（1本のリードピン）が社会を支える」という想いで、日々変化する電子部品に合わせた作り方を考え、社会に貢献できる企業であるよう日々努力している。

■ヘッダー加工



■FFC加工



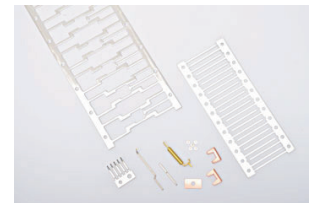
■ストレートカット



■NC加工



■プレス加工



■樹脂成形加工



■フォーミング加工



■薄板材加工



株式会社電研端子製作所のこだわり

60年以上の実績と経験に培われた「小さな部品のパーツを作る技術力」

当社は、60年以上にわたり電子機器接続コネクタリードピンの開発・製造を継続してきたことにより、小さな部品のパーツを作成する技術力については経験と強みを有している。

さらに、培われてきた技術力の継承・発展を視野にいたした体制を構築するとともに、新しい設備を積極的に導入することで、蓄積されたノウハウを最大限に生かすことができる体制づくりに取り組んでいる。

また超微細加工や三次元加工については、エレクトロニクスにとどまらず医療機器業界などへの参入を果たすとともに、その技術力の水平展開を図るべく様々な業界において、既成概念に捉われない技術開発・提携を進めていこうと考えている。



株式会社 電研端子製作所

業種分類 電子部品・デバイス・電子回路製造業

事業内容 電子部品用リードピン製造、線材・薄板材の極微細加工 プレス金型・施工

代表者名 代表取締役社長 岡崎 美樹孝

ホームページ <http://www.denken-t.co.jp/>

所在地 奈良県生駒市北田原町 1059番地

E-MAIL info@denken-t.co.jp

連絡先 TEL:0743-79-1467/FAX:0743-79-1468